

障がい者就労支援と安全・安心の加工品

「シソ飲料活用した特産品づくり」

障がい者の自立支援と就労の場創出を目的としているNPO法人福祉サポートきらきら本舗は、役場内の喫茶「たんぽぽ」を営業し、シソ飲料「紫式部」を平成24年度から製造・販売しています。

また、シフォンケーキの製造をはじめ、今年は、シソ飲料を使ったロールケーキやひやむぎを製造、販売しています。こうした各種事業は、障がい者の就労の場を確保するとともに、食の安全などをめざし、自らが生産したシソを使うことによる安全・安心の提供、さらに新たな訓子府の特産品創出につながっています。

シソ飲料を使った特産品づくりは、「福祉」の事業として発信され、今後、異業種も含めた連携により、地域づくり、まちづくりへとつなげていく予定です。



じゃがいも「スノーマーチ」

訓子府ブランド確立へ

北見農業試験場で開発された病害虫に強い品種、「訓子府育ち」のじゃがいも「スノーマーチ」。平成20年から町内11戸の農家で70aの栽培が始まり、現在では、栽培農家が北見の農家も含め52戸で64haまでに増えています。

訓子府町馬鈴薯耕作組合は、毎年じゃがいもの販売促進に取り組んでおり、平成26年度は、小中学生への食育を通じてPR活動の展開や「ご当地メニュー」づくりを行う予定です。

また、スノーマーチ普及委員会の元役員らで焼酎「訓粹」の売り込みにも取り組んでいます。平成27年度以降もさらなるステップアップをめざし、各種活動に取り組み、スノーマーチの知名度を向上させるとともに、訓子府ブランドを確立させ、訓子府から全国への発信をめざし、農業の町・訓子府をアピールします。

訓子府の元気づくり

訓子府町では、基幹産業の農業や商工業などの連携で、イベントの展開や特産品のPRなど、近年活発な活動が見られます。

商店街ストリートフェスタの開催、シソ飲料などの販売促進による障がい者の就労支援、さらに、じゃがいも「スノーマーチ」の販売促進など、それぞれ地道な活動が訓子府を元気づけています。

産業振興へ 新たな 取り組み

- ☆異業種青年で商店街活性化
- ☆福祉推進からまちづくりへ
- ☆新たなブランド品を

商工会と青年団体が商店街活性化

町の商店街活性化を図る新しいイベントとして8月に中心街で開かれた「ストリートフェスタ in くんねっぶ」。主催は、町商工会で、さまざまな団体が連携協力しました。

この連携協力団体の一つに「くんねっぶI (アイ) 倶楽部」があります。昨年、町内の異業種の青年が集まり、商店街を中心に町の発展策を企画、実践しています。

その第1弾がストリートフェスタで、8月3日の1回目は、フリーマーケットや農産物の直売、ストリート屋台、ミニライブなど多彩な内容で盛り上がりました。

2回目は10月19日に実施予定のほか、さまざまな取り組みを検討し、青年らが一丸となって商店街などの振興をめざしています。



「ストリートフェスタ」

